

ものづくりを行う場所で、  
森づくりも行われている。  
それがこれからの工業団地だ。



## □ 第1話 自然と共生する工業団地

「みんな、植えたい木は決まったかな?」「はい!」思い思いの苗木を手にした子供たちから、案内役の社員に、元気いっぱいのお返事がかえってきた。「はやくはじめようよ!」待ち切れなかったのか、にぎやかな男の子がそう叫ぶと、その場にどっと笑いがおきた。「ごめんごめん、では、さっそく植樹をはじめましょう」

ここは富士山のみもと、静岡県富士宮市。私たち大成建設が、自然と共生する新しいものづくりの場、富士山南陵工業団地の開発を行っている場所だ。

## □ 「本物の森」をつくりあげる緑化技術

10年の森づくり。それが富士山南陵工業団地の設計で掲げたテーマだ。従来の開発事業では、敷地内を緑化する際、工事にあわせて一度に植樹する手法をとる。しかしその方法では、整然としてきれいに見えるだけの、人工的な緑になってしまう。そこでこの場所では、10年にわたって段階的に植樹を行うことで、自然に近い多様な森を育てる取り組みに挑戦している。目標となる森の姿をデザインし、逆算して配植プランを設計。地域の植生に合う樹木を選び、組み合わせにも工夫をした。配植の間隔を空けることで、隙間に周辺地域の種子が発芽することも狙った。

長い年月をかけて行う植樹作業は、地域の子供たちやボランティアの方々の笑顔といっしょに進めていく。地元のNPOを中心に、森づくりに取り組む産・官・学・民連携の『フォレストセイバープロジェクト』も組織された。

## □ 工業と自然が一体となる環境をめざして

これまで人間にとって、工場は、自然とは無関係だった。もう少し言えば、人工と自然、相容れないものとして区別してきた。しかし、環境問題が深刻化する今、その考え方は見直されるべきだ。自然と共生するものづくりの環境がなければ、人類の発展と自然の繁栄は、両立できないだろう。たくましく育つ森の中に、工場が建っている。そんな未来を目標に、大成建設は、新しい環境づくりへの挑戦を続ける。

環境問題を考える。  
ゼネコンの責任は、重い。

For a Lively World  
**大成建設**  
TAISEI